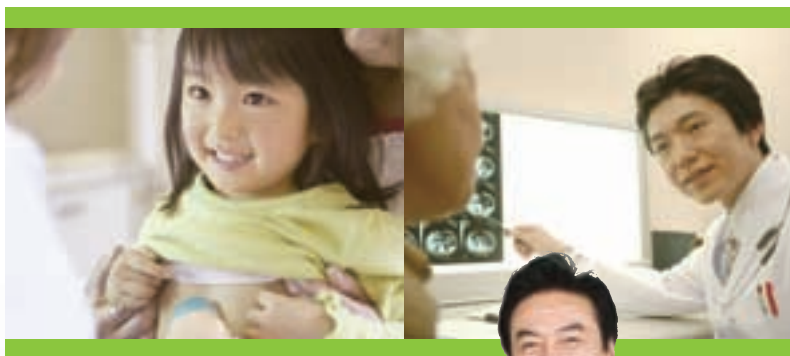


第59期 株主通信

平成18年4月1日～平成19年3月31日

sawai TODAY



patients first

沢井製薬株式会社

証券コード 4555

ジェネリック医薬品のトップブランド



なによりも患者さんのために patients first

- 1 「真心を込めた医薬品を通じ、
人々の健やかな暮らしを実現する」
それが **sawai** の使命です。
- 2 「創造性を追求し、
革新と協調により社会とともに成長する」
それが **sawai** の挑戦です。
- 3 「お役に立ちたいという心を持ち、
なくてはならない存在になる」
それが **sawai** の願いです。

CONTENTS

TOP MESSAGE

—— 当期業績の概況と新しい取り組み	1
当社の体制と活動	
開発/生産/供給体制	5
MR活動	7
啓発活動	8
連結財務諸表（要約）	9
単体財務諸表（要約）	12
会社概要	13
株式情報	14

TOP MESSAGE



代表取締役社長

澤井 弘行

国の方針「ジェネリック医薬品の普及」のもと、 新市場の開拓を進め、業績向上に努めます。

処方せん様式変更による市場拡大期待のなか、当社はトップブランドとしての品質・情報・安定供給をPRしつつ、積極的な営業・広告活動を展開して28.9%の売上増を達成。次期は新市場開拓、高採算品の拡販で売上高400億円達成を目指します。

株主の皆さまにおかれましてはますますご清栄のこととお喜び申し上げます。また、平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。ここに第59期（平成18年4月1日から平成19年3月31日まで）の事業報告をさせていただきます。

2桁増収達成するも、営業・経常利益は小幅の増に。

当4月に実施された処方せん様式の変更は、制度面で患者本位の薬剤選択に道を開く画期的な施策として評価されましたが、残念ながら全体としては当初期待されたほどジェネリック医薬品の普及が進んでいないのが実状です。

そうした中で当社は、処方せん様式変更等の追い風を最大限活かすべく、保険薬局や大手病院等の新市場開拓を積極的に進め、売上高34,316百万円と前期比28.9%増を達成することができました。利益面では、薬価基準引き下げによる販売単価の値下がり等もあって売上原価率が0.8%上昇したほか、販売費および一般管理費が大幅に増加し、経常利益4,331百万円と前期比7.2%増に止まり、純利益は特別利益が減少した結果2,259百万円と24.9%減となりました。

中期経営計画達成に向けて、 組織体制の充実、攻めの営業活動を進めます。

次期も医療費の効率化と適正化を図るための医療保険制度改革が引き続き推進されます。平成20年4月には薬価改定が実施される予定で、改定前の買い控えも予想されます。一方、国の方針には「ジェネリック医薬品の普及」が明確に掲げられており、新たな施策が打ち出される可能性も高まっています。

そうした中、当社は病院など新市場の開拓と保険薬局への取引深耕を図るとともに、本社・研究所集約による経営機能と研究開発能力の強化、生産設備の拡充を進めます。業績は、売上高403億円、経常利益53億円、純利益28億円を見込みます。また、昨年12月に公募・第三者割当合わせて新株205万株を発行し、約89億円を調達いたしました。これらを今後の需要増大に備えた設備投資、ならびに売上拡大に伴う運転資金に充当・活用し、企業規模の拡大を図ってまいります。中期経営計画の最終年度である平成21年3月期には、売上高450億円、経常利益70億円、経常利益率15.6%の達成を目指してまいります。

真のトップブランドをめざし、「企業品質」向上のためのインターナルブ

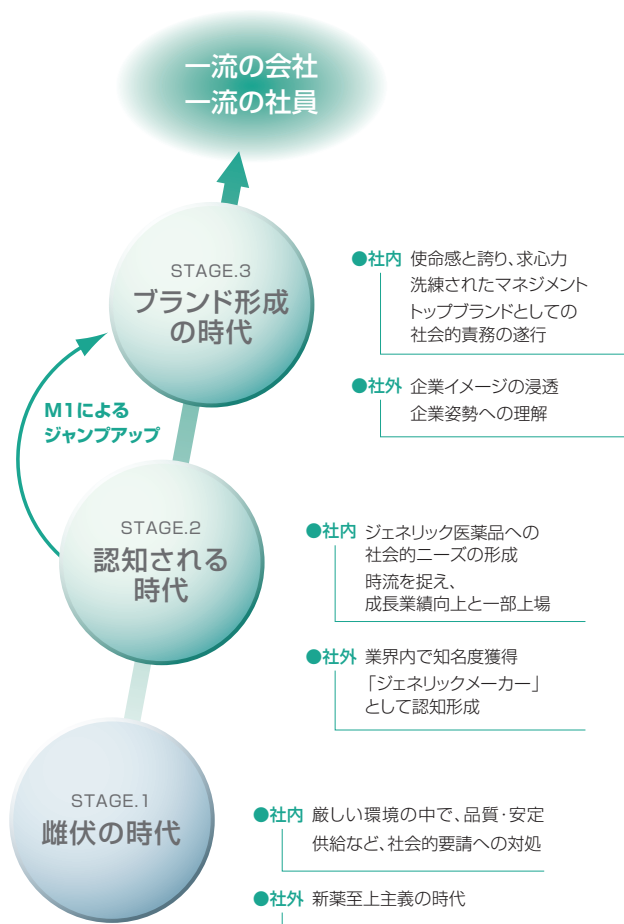
一流の会社となるための 「息の長い体質改善」運動、M1を展開します。

ジェネリック医薬品の普及が進む中、信頼され、選ばれるジェネリックメーカーとなるためには、“sawai”ブランドを確立し、真のトップブランドとして社内外に認知されることが鍵となります。ジェネリック医薬品のリーディングカンパニーとして成長を続けている今こそ、社員ひとりひとりが沢井製薬のブランドとは何かを認識して行動していくべき時と考え、59期よりインターナルブランディング活動（社員によるブランド形成活動）をスタートさせました。それが、「みんなで一番（M1）プロジェクト」です。

この活動の下、全社員が沢井製薬のブランドに関して共通の認識を持ち、それを日々のすべての業務に反映させていくことが重要と考えています。市場規模拡大に伴う企業規模の拡大、新本社・研究所の完成など、大きな変化を遂げる今、「沢井製薬が一流の会社になる。私たちが一流の社員になる」ことを目的としたM1の展開により、社員が誇りを持ち、ステークホルダーに信頼され、尊敬される真のトップブランドに成長していきたいと考えています。

■M1プロジェクトの概要

「一流の会社になる 一流の社員になる」ための
息の長い体質改善運動



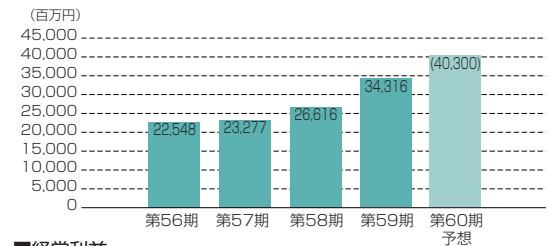
ランディング活動を推進しています。

M1プロジェクトは社長、次世代の経営幹部候補、若手・中堅の各層をはじめ、全社員が参加。「なによりも患者さんのために」というモットーを深掘りし、企業理念と行動基準を策定。その浸透を通じて求心力を高めながら、社員の意識と行動の変革を図ります。同時に、業務プロセスや組織体制、風土などの潜在的課題について、解決のための具体的な施策や行動計画を実行する「息の長い体質改善」に全社で取り組んでいます。現在はフェーズ1が終わり、具体策を検討・実行するフェーズ2に取り組んでいます。

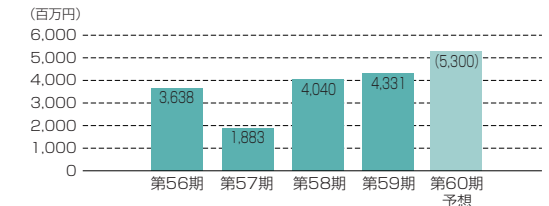


社員一人一人が携帯するカードと冊子。

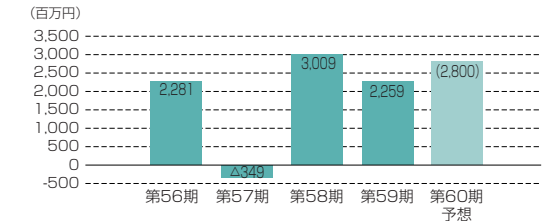
売上高



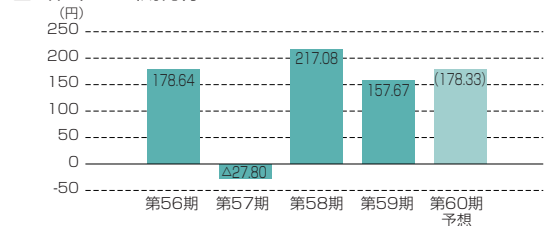
経常利益



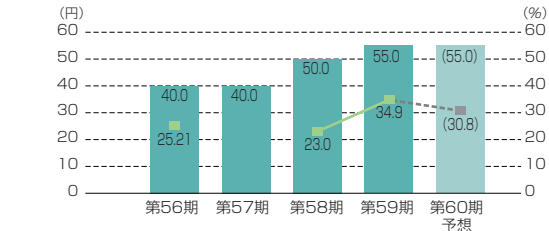
当期純利益



1株当たり当期純利益



1株当たり配当/配当性向（連結）



※（ ）は通期の予想

開発/生産/供給体制

ジェネリック医薬品をいち早く届けたい。
万全の生産と流通の体制で求める人みんなに
届けたい——トップブランドの自覚のもと、
開発力も強化しています。

新本社・研究所稼働により、 経営機能・開発力向上を図ります。

2006年10月に完工した新本社・研究所ビルでの活動
がいよいよスタート。これまで分かれていた本社と3つの
研究所を集約することで、経営と研究開発の連携を強化、
経営の意思決定や開発のさらなるスピードアップを図ります。

新大阪・新御堂筋沿いという好立地を活かし、ビル壁面に
巨大な看板を掲げており、ジェネリック医薬品トップブラン
ドのシンボルとしての機能も兼ね備えています。社員が活
き活きと働くことができるオフィス環境が整えられたことで、
モチベーションの向上、コミュニケーションの活性化により、
さらなる業績向上への取り組みを推進してまいります。

■新本社・研究所ビルのフロア構成

10F	カフェテリア・会議室
9F	
8F	オフィスエリア
7F	
6F	生化学エリア
5F	製剤化エリア
4F	
3F	製剤分析エリア
2F	薬物動態分析エリア
1F	エントランスホール





注射薬のラインアップ充実、安定供給強化へ。 関東工場シリンジ棟が竣工しました。

製剤と注入器が一体になっていて、病院からのニーズが高いプレフィルドシリンジ製剤。その生産力を高めるために建設を進めてきた関東工場のシリンジ製剤棟が完成し、5月末に本格稼動いたしました。



今後は、新鋭設備を核に、シリンジ製剤のラインアップの拡充ならびに安定供給を図っていきます。

唯一の「セファランチン」製造販売会社 化研生薬株式会社の株式を取得。

当社は、その国内外唯一の「セファランチン」製造販売会社である化研生薬株式会社の株式の大半を取得しました。

同社が昭和17年の創立以来、セファランチンの販売を通じて築いてきた医療機関とのパイプを活用し、当社のジェネリック医薬品の浸透を図るといったシナジー効果を期待しています。今後、セファランチンの販売強化とともに、当社事業の一層の拡大に役立てていく方針です。

※セファランチン

放射線による白血球減少症、円形脱毛症・粒糠性脱毛症、滲出性中耳炎に用いられる医療用医薬品。

将来のバイोजェネリック医薬品開発に布石、 サミット・グライコリサーチに資本参加。

「バイオ医薬品」と呼ばれる蛋白質製剤市場は、現在、全世界で3兆円規模に達し、さらに成長を続けています。1980年代に開発された初期のバイオ医薬品は特許が切れ始めており、経済的なジェネリック医薬品（以下、バイोजェネリック医薬品）の登場が待たれています。しかし現在の技術水準では、全く同じ構造・作用を示す物質を確保することが難しく、同等性を担保する承認基準の設定自体も難しいため、バイोजェネリック医薬品の開発・製造は不可能に近いとされています。

バイオ医薬品の薬効成分の多くは、糖鎖の結合した糖タンパク質と呼ばれるもので、高品質のバイオ医薬品を開発・製造するうえでは、糖鎖をコントロールする技術がきわめて重要になってきます。そこで当社はバイオ先端技術を持つバイオベンチャー企業「サミット・グライコリサーチ」に資本参加しました。

同社は、東京大学発の糖鎖*等研究成果の事業化支援を軸とした住友商事株式会社のバイオ分野における戦略事業会社。糖鎖の解析、操作・改変技術、遺伝子組み換え技術の開発や、さまざまな研究機関との提携による画期的な医薬品・診断薬の開発を行っています。

当社は、同社への資本参加により、糖鎖技術の開発を支援するとともに、近い将来、バイोजェネリック医薬品の開発・製造においてもリーディングカンパニーとなることを目指します。



*糖鎖

グルコース（ぶどう糖）やガラクトースなどの単糖が鎖状に連なった物質で、細胞表面などについて、細胞の機能や相互作用を調節するなど細胞同志の情報伝達で重要な役割を果たし、生命の維持、疾病のメカニズムに深く関わっていることが示唆されている。

MR活動

どこよりも速く、どこよりも充実した質・量を——
ジェネリック医薬品メーカーNo.1 を
モットーにした医薬品情報活動を展開。

<http://med.sawai.co.jp/>

DPC^{*1} 病院の攻略に向け「病院課」新設。

近年、DPC導入病院を中心にした地域医療連携^{*2}が図られています。これにより周辺の病院・診療所・薬局採用薬剤が、DPC導入病院で採用される薬剤に影響されていくことが予想されます。ジェネリック医薬品のトップブランドとしての地位を確立・強化していくためには、このDPC導入病院の攻略がますます重要になります。DPC病院での採用実績が医薬品市場を制することにつながるからです。

しかも、現在360病院にまで拡大が進んだDPC導入は、今後もさらに進み、2012年には1,000病院にまで拡大する見通しです。DPC病院の攻略には、病院の変化に迅速かつ臨機応変に対応することが欠かせません。しっかりとパイプを築き、継続的に品質や安全性等に関する情報提供を行うことが重要です。

このDPC導入病院に対して、当社の信用と信頼を獲得していくために発足したのが、「病院課」です。病院課は全国7支店に設置され、支店内の最重要病院に重点特化していくことで、新規口座獲得と院内シェア拡大に注力します。もちろん、地域医療連携を見据え、エリア担当MR^{*3}との情報共有・連携を図り、当社のシェアを全体として高めていくことにも貢献していきます。

*1 DPC (Diagnosis Procedure Combination)

急性期入院医療の診断群分類に基づく一日当たりの包括評価、包括的診療報酬制度

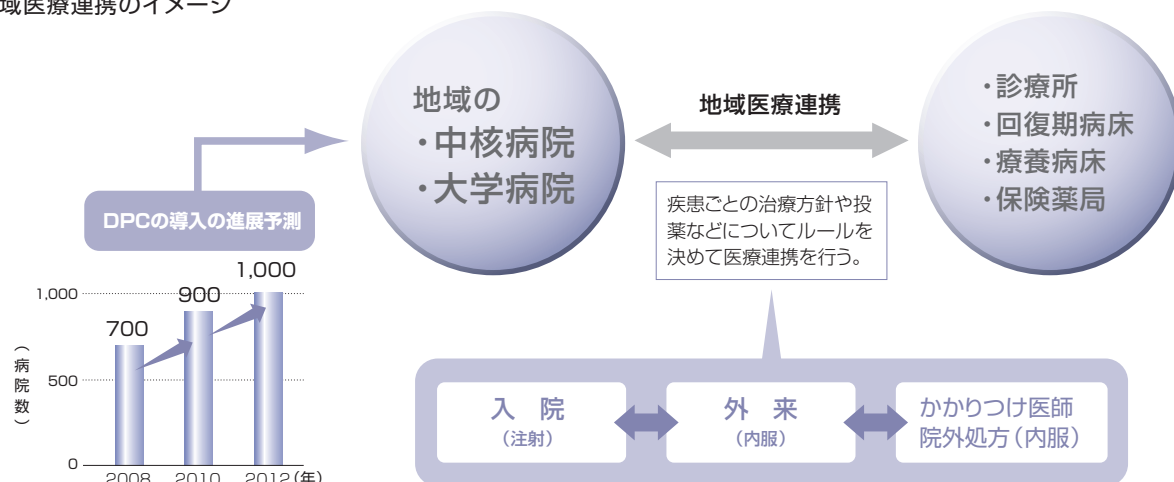
*2 地域医療連携

地域の病院同士や病院・診療所間において、疾患ごとの治療方針や投薬などについてルールを決めて医療連携を行うこと

*3 MR (Medical Representative)

医薬情報担当者と呼ばれ、製薬企業の営業を担当する者のこと。主に医療関係者への医薬品情報の提供を行う

■地域医療連携のイメージ



啓発活動

なによりも患者さんと社会の負担を軽くするものだから、
しっかりとジェネリック医薬品について知って、使ってほしい——
沢井製薬はテレビCMをはじめ、さまざまな媒体を通して
ジェネリック医薬品の啓発と、当社のブランドづくりに努めています。

全国紙2紙へ広告 「沢井製薬の品質論」。

今、ジェネリック医薬品の最大の課題の一つがジェネリック医薬品の品質・安定供給・情報提供等に関する医療関係者の不安を払拭し、理解と信頼を形成していくこと。そこで当社では、日本経済新聞、朝日新聞の2紙で「沢井製薬の品質」をテーマにした全面広告を展開しました。

広告では、製品の質だけに止まらず、徹底した衛生管理や最新鋭の設備といった「生産環境」、医療関係者や患者さんへの迅速かつ的確な「情報提供」、製品に一切の妥協をせず、つくり、届ける「人」という、すべてを「品質」と考える当社の思想と姿勢をアピール。「なによりも患者さんのために」という企業理念に基づき、確かなジェネリック医薬品を届けるトップブランドであることを印象づけました。



2007年4月3日付
日本経済新聞、
朝日新聞 全国版に掲載

生活者向け「ジェネリック医薬品」の シンポジウムに協賛。

ジェネリック医薬品への認知は進んでいますが、その普及はまだ始まったばかり。当社では、生活者に正しくジェネリック医薬品を理解していただくため、積極的な啓発活動に努めています。その一環として、4月6日は大阪市内にて開催の日本経済新聞社主催「健康について考えるセミナー」に協賛しました。今秋には東京でも開催する予定です。

健康について考えるセミナー			
テーマ：いま話題のジェネリック医薬品 ～ 私のお薬代って安くなるの? ～			
日時：2007年4月6日（金）14時～16時 会場：そごう劇場（心斎橋そごう内）		主催：日本経済新聞社 大阪本社 広告局 協賛：東和薬品株式会社、沢井製薬株式会社	
プログラム	14:00-14:50 『21世紀のジェネリック医薬品 ～処方せん様式の改定と 代替調剤の時代を迎えて～』 国際医療福祉大学大学院教授、 同大附属三田病院副院長、日本ジェネリック研究会 会長 武藤 正樹 氏	休憩 10分 15:00-16:00 『いろいろ知りたい ジェネリック医薬品のこと』 武藤 正樹 氏 (大阪府薬剤師会 会長) 中西 光景 氏 (大塚製薬株式会社) 福島 敦子 氏 (キャスター エッセイスト)	パネリスト 武藤 正樹 氏 国際医療福祉大学附属三田病院 副院長、国際医療福祉大学研究科 同大大学院教授。 1949年生まれ。神奈川県出身。 1978年東京大学大学院薬学研 究科修了後、国立横浜病院にて外科医として勤務。同病 院在籍中1985年～1988年までニューヨーク州立大学 薬学部薬学部に留学。1988年厚生省薬務局薬事課薬事 長官補佐。1990年国立愛媛県立中央病院副院長。1994 年国立京都病院研究科長官補佐。1995年 国立長崎病院副院長。2003年2月以降、本職を引退後 マサチューセッツ大学理事、日本ジェネリック研究会、日本 外科会会長、著書に「薬物のQOL評価と応用」（薬事研 究1997年1月号）、「がんの分子標的薬のたたらい」 が関与する本」（日経出版2001年1月号）などがある。
	中西 光景 氏 社団法人 大阪府薬剤師会 会長		
お申し込み方法 本セミナーへ参加ご希望の方は、〒住居・氏名・年齢・電話番号・職業を記入し、右記までお申し込み下さい。 3月28日(月) 必着			
お申し込み先 06-6941-8232 URL http://www.nikkei.co.jp/adnet/		お問い合わせ 06-6946-4187 (平日10:00～17:00)	
〒540-8589 大阪市中央区大手前1-1-1 日本経済新聞社 大阪本社 広告局		定員250名 入場無料	

連結損益計算書

単位：千円

	当連結会計年度 平成18年4月1日～ 平成19年3月31日	前連結会計年度 平成17年4月1日～ 平成18年3月31日
科 目		
① 売上高	34,316,878	26,616,287
② 売上原価	17,356,832	13,265,008
売上総利益	16,960,045	13,351,279
③ 販売費及び一般管理費	12,267,274	9,051,935
営業利益	4,692,770	4,299,344
営業外収益	69,282	146,141
営業外費用	431,013	405,098
経常利益	4,331,039	4,040,387
④ 特別利益	194,048	1,128,969
④ 特別損失	358,748	126,005
税金等調整前当期純利益	4,166,339	5,043,351
法人税、住民税及び事業税	1,737,749	1,830,359
法人税等調整額	△ 29,206	203,035
少数株主利益	198,094	—
当期純利益	2,259,701	3,009,956

Point ① 売上高

06年4月の処方せん様式変更をはじめとしたジェネリック医薬品使用促進の追い風のもと、積極的な営業活動を展開した結果、保険薬局や大手病院等の新市場開拓が進みました。特に、制度変更直後の第1四半期に急伸び、前年同期比 28.9%増となりました。

Point ② 売上原価

薬価改定による販売単価の値下がり、製造人件費、外注加工賃、設備投資に伴う減価償却費負担など経費の増加により、売上原価率が上昇いたしました。

Point ③ 販売費及び一般管理費

- 試験研究費…3,085百万円(前期 2,241百万円)
研究所統合・移転に伴う、研究の外部委託費用増加に加え、今後の大型製品の特許切れや新製品発売機会の増(年1回→年2回)に備え、研究開発を加速
- 広告宣伝費…1,275百万円(前期 704百万円)
制度変更のタイミングにあわせ、当社及びジェネリック医薬品の認知向上のためにテレビCMや新聞広告を集中的に実施
- 人件費…3,778百万円(前期 3,103百万円)
医療機関への情報提供活動を担うMR増員等による増加

Point ④ 特別利益・特別損失

- 特別利益:前期は、日本シエーリングから譲り受けた関東工場の固定資産譲受益(675百万円)、年金制度移行による退職給付引当金取崩益(297百万円)を計上しました。当期においては、販売権付与収益等 合計194百万円の計上に留まりました。
- 特別損失:減損損失…297百万円
本社・研究所への移転後遊休となる大阪研究所の土地、建物等の減損処理を実施しました。

連結貸借対照表

単位：千円

科 目	当連結会計年度 平成19年3月31日現在	前連結会計年度 平成18年3月31日現在
資産の部		
流動資産	38,743,737	29,274,614
現金及び預金	7,360,093	6,832,455
受取手形及び売掛金	16,583,546	12,079,598
たな卸資産	13,767,635	9,608,756
繰延税金資産	555,355	531,746
その他	524,163	239,906
貸倒引当金	△ 47,056	△ 17,848
固定資産	29,083,497	22,722,769
有形固定資産	26,861,221	20,602,536
建物及び構築物	14,402,995	8,019,826
機械装置及び運搬具	4,895,915	3,349,550
土地	4,861,590	4,443,549
建設仮勘定	1,569,595	4,049,828
その他	1,131,124	739,781
無形固定資産	742,469	791,448
投資その他の資産	1,479,806	1,328,783
投資有価証券	970,845	880,448
長期貸付金	236,413	256,463
長期前払費用	55,481	110,950
繰延税金資産	—	4,497
その他	269,149	107,549
貸倒引当金	△ 52,083	△ 31,124
資産合計	67,827,234	51,997,384

単位：千円

科 目	当連結会計年度 平成19年3月31日現在	前連結会計年度 平成18年3月31日現在
負債の部		
流動負債	18,525,047	18,352,486
支払手形及び買掛金	4,460,228	4,855,402
短期借入金	7,117,456	4,428,216
未払金	4,934,657	6,376,149
未払法人税等	958,766	1,919,244
賞与引当金	708,315	564,225
役員賞与引当金	47,570	—
返品調整引当金	77,302	53,676
その他	220,750	155,572
固定負債	9,981,172	4,811,378
長期借入金	8,534,304	3,836,760
退職給付引当金	186,038	—
役員退職慰労引当金	381,104	362,059
繰延税金負債	253,901	135,154
負ののれん	50,280	—
その他	575,543	477,405
負債合計	28,506,219	23,163,865
少数株主持分		
少数株主持分	—	1,290,655
資本の部		
資本金	—	7,022,220
資本剰余金	—	7,345,916
利益剰余金	—	12,867,838
その他有価証券評価差額金	—	307,028
自己株式	—	△ 139
資本合計	—	27,542,863
負債・少数株主持分及び資本合計	—	51,997,384
純資産の部		
株主資本	37,519,727	—
資本金	11,501,654	—
資本剰余金	11,825,350	—
利益剰余金	14,193,794	—
自己株式	△ 1,072	—
評価・換算差額等	296,819	—
その他有価証券評価差額金	296,819	—
少数株主持分	1,504,468	—
純資産合計	39,321,015	—
負債及び純資産合計	67,827,234	—

連結財務諸表(要約)

連結キャッシュ・フロー計算書

単位：千円

科 目	当連結会計年度	前連結会計年度
	平成18年4月1日～平成19年3月31日	平成17年4月1日～平成18年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 4,370,175	1,885,258
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 10,551,455	△ 2,313,209
財務活動によるキャッシュ・フロー	15,449,269	2,021,737
現金及び現金同等物に係る換算差額	—	—
現金及び現金同等物の増加額	527,637	1,593,787
現金及び現金同等物の期首残高	6,832,455	5,238,668
現金及び現金同等物の期末残高	7,360,093	6,832,455

連結株主資本等変動計算書

当連結会計年度(平成18年4月1日～平成19年3月31日)

単位：千円

	株主資本					評価・換算差額等		少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計		
平成18年3月31日残高(千円)	7,022,220	7,345,916	12,867,838	△ 139	27,235,835	307,028	307,028	1,290,655	28,833,519
連結会計期間中の変動額									
新株の発行(公募)	4,042,416	4,042,416			8,084,833				8,084,833
新株の発行(第三者割当)	437,018	437,018			874,036				874,036
剰余金の配当			△ 887,375		△ 887,375				△ 887,375
役員賞与の支給			△ 46,370		△ 46,370				△ 46,370
当期純利益			2,259,701		2,259,701				2,259,701
自己株式の取得				△ 933	△ 933				△ 933
株主資本以外の項目の連結 会計期間中の変動額(純額)						△ 10,208	△ 10,208	213,812	203,604
連結会計期間中の 変動額合計(千円)	4,479,434	4,479,434	1,325,955	△ 933	10,283,891	△ 10,208	△ 10,208	213,812	10,487,496
平成19年3月31日残高(千円)	11,501,654	11,825,350	14,193,794	△ 1,072	37,519,727	296,819	296,819	1,504,468	39,321,015

単体財務諸表（要約）

損益計算書

単位：千円

科 目	当 期 平成18年4月1日～ 平成19年3月31日	前 期 平成17年4月1日～ 平成18年3月31日
売上高	33,662,163	26,225,353
売上原価	18,383,113	13,903,184
売上総利益	15,279,049	12,322,169
販売費及び一般管理費	11,731,694	8,781,382
営業利益	3,547,354	3,540,786
営業外収益	63,783	162,162
営業外費用	367,957	366,887
経常利益	3,243,180	3,336,061
特別利益	84,618	1,131,045
特別損失	357,692	526,147
税引前当期純利益	2,970,106	3,940,960
法人税、住民税及び事業税	1,256,371	1,538,080
法人税等調整額	△ 18,092	48,526
当期純利益	1,731,827	2,354,353

貸借対照表

単位：千円

科 目	当 期 平成19年3月31日現在	前 期 平成18年3月31日現在
資産の部		
流動資産	35,633,615	26,845,822
固定資産	26,674,554	21,078,999
有形固定資産	23,325,591	18,468,219
無形固定資産	733,146	787,168
投資その他の資産	2,615,816	1,823,611
資産合計	62,308,170	47,924,822
負債の部		
流動負債	17,070,638	17,226,330
固定負債	9,619,405	4,827,191
負債合計	26,690,044	22,053,521
資本の部		
資本金	—	7,022,220
資本剰余金	—	7,345,916
資本準備金	—	7,345,916
利益剰余金	—	11,196,275
利益準備金	—	400,841
任意積立金	—	8,338,601
当期末処分利益	—	2,456,833
その他有価証券評価差額金	—	307,028
自己株式	—	△ 139
資本合計	—	25,871,300
負債及び資本合計	—	47,924,822
純資産の部		
株主資本	35,320,290	—
資本金	11,501,654	—
資本剰余金	11,825,350	—
利益剰余金	11,994,357	—
自己株式	△ 1,072	—
評価・換算差額等	297,835	—
その他有価証券評価差額金	297,835	—
純資産合計	35,618,126	—
負債及び純資産合計	62,308,170	—

会社の概要

社名	沢井製薬株式会社
創業	昭和4年4月1日
設立	昭和23年7月1日
資本金	115億165万円
従業員数	737名(連結)
事業内容	医薬品の製造販売及び輸出入
販売品目	循環器用剤、抗生物質、抗がん剤など 医療用医薬品400品目及び一般用医薬品
主要取引銀行	三井住友銀行、三菱東京UFJ銀行
ご採用先	国立病院など全国約7,300病院(カバー率約81%)、 約37,600医院・診療所(約38%)、 及び保険薬局約36,000軒
販売代理店	西部沢井薬品ほか国内160社、海外1社及び広域卸
提携会社	明治製菓(株)、旭化成ファーマ(株)、積水化学工業(株)、 扶桑薬品工業(株)、三菱ウェルファーマ(株)、 アスピオファーマ(株)ほか

役員 (平成19年6月22日～)

代表取締役会長	澤井 治郎	取締役	澤井 武清
代表取締役社長	澤井 弘行	取締役	徳山 慎一
専務取締役	澤井 光郎	取締役	高橋 嘉輝
常務取締役	岩佐 孝	取締役	尾鼻 康弘
常務取締役	戸谷 治雅	取締役	小玉 稔
常務取締役	木村 圭一	常勤監査役	小西 俊明
常務取締役	石川 数一	監査役	眞野 新
常務取締役	横浜 重晴	監査役	上田 耕治
		監査役	菅尾 英文

本社・事業所・グループ会社

本社・研究所	大阪市淀川区宮原5丁目2-30 (平成18年12月～)
支店	札幌、仙台、東京、名古屋、大阪、広島、福岡
営業所	東京東、東京西、横浜、北関東、上信越、静岡、京都、神戸、 北陸、岡山、高松、熊本
工場	九州工場、三田工場、大阪工場、関東工場、メディサ新薬九州工場
関連会社	メディサ新薬株式会社、化研生薬株式会社

株主メモ

決算期	3月31日	事務取扱場所	〒541-0041 大阪市中央区北浜二丁目2番21号 中央三井信託銀行株式会社 大阪支店 証券代行部 ☎0120-78-2031 株式関係のお手続用紙のご請求は、次の中央三井信託銀行の 電話及びインターネットでも24時間承っています。 ☎0120-87-2031 http://www.chuomitsui.co.jp/person/p_06.html
定時株主総会	6月	郵便物受付	
1単元の株式の数	100株	電話照会	
配当金受領株主確定日	3月31日及び中間配当を行うときは9月30日	同取次所	中央三井信託銀行株式会社 本店及び全国各支店 日本証券代行株式会社 本店及び全国各支店
基準日	定時株主総会については3月31日といたします。 その他必要があるときは、あらかじめ公告して定めます。	名義書換手数料	無料
株主名簿管理人	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社	公告方法	電子公告としております。ただし、事故やその他止む を得ない事由によって電子公告による公告をすることが できない場合は、日本経済新聞に掲載します。 ※公告掲載の当社ホームページアドレス (http://www.sawai.co.jp/ir/index.html)

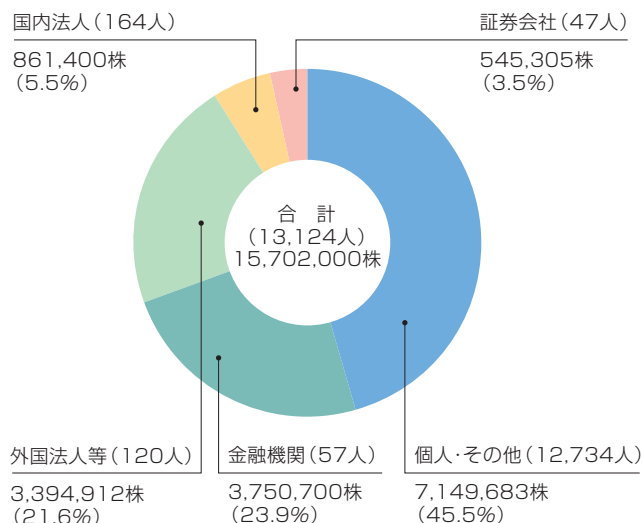
株式状況

会社が発行する株式の総数	38,800,000株
発行済株式の総数	15,702,000株
1単元の株式の数	100株
株 主 数	13,124名

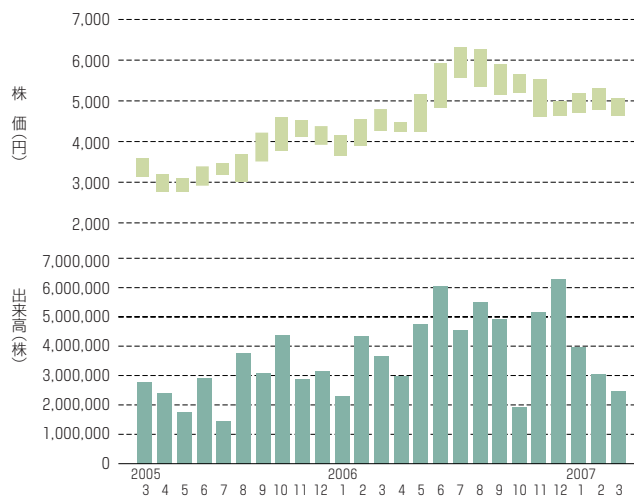
大株主

株 主 名	持 株 数
日本トラスティ・サービス信託 銀行株式会社 (信託口)	960,100株
日本マスタートラスト信託 銀行株式会社 (信託口)	625,700株
澤井治郎	614,500株
澤井弘行	614,500株
澤井光郎	484,000株
澤井健造	484,000株
野村信託銀行株式会社 (投信口)	303,800株
株式会社 三井住友銀行	300,000株
バンク オブ ニューヨーク ジーシーエム クライアント アカ운ツ イー アイエスジー	273,447株
ザ バンク オブ ニューヨーク ノントリーティー ジャスティック アカount	215,600株

株式分布状況



株価 (高値・安値) および出来高の推移



3 なぜ?

ジェネリック医薬品の

安心・安全は

どのように守られているの?



「ジェネリック医薬品は新薬と成分や効き目が同じ」と言われても、いまひとつ納得しづらいという方もいらっしゃるようです。ジェネリック医薬品の価格が約半分*と安いことから、「同じなのに、なぜ?」と漠然と不安に感じるのではないのでしょうか?

ジェネリック医薬品が発売されるまでには、品質、有効性、安全性について、新薬（先発医薬品）と同等であることが厳密に審査されているのです。純度や不純物の程度、安定性、ヒトでの有効性と安全性の面から見た「生物学的同等性」などにより、先発医薬品と同等であることが証明されてはじめて、医薬品として承認されます。

そしてもう一つは、承認、製造管理、品質管理など各段階で、新薬と全く同様の基準に沿って製造されていること。基準に適合しているかどうか、定期的に行政により監査され、検証されているほか、市販製品、流通在庫製品についても定期・不定期に品質が検査されています。

さらに、平成9年からは「品質再評価」という制度が実施されており、より厳しい品質管理体制が敷かれています。

* 窓口で支払う金額には、お薬代の他に、診療代・検査代などが含まれています。

➡ ジェネリック医薬品の処方をご希望の時は、かかりつけの医師・薬剤師にご相談ください。

ジェネリック医薬品は、医療用医薬品のため医師の処方せんが必要です。お薬によってはジェネリック医薬品が発売されていない場合、医療機関により取扱いのない場合もありますので、ご希望の際にはまず医師や薬剤師の先生にご相談ください。

沢井製薬株式会社

大阪市淀川区宮原5丁目2-30 〒532-0003
TEL: 06-6105-5711 FAX: 06-6394-7311
URL: <http://www.sawai.co.jp>



この株主通信は、環境に配慮し、再生紙と大豆インキを使用しております。